



■ 平成筑豊鉄道商品化許諾済

ANRW-73029B / 本編 137分 4,950円 (税込)
 ANRW-73028 / 本編 137分 3,981円 (税込)

■ 撮影日 / 2021年11月15日(月) 晴 ■ 車 両 400形
 ■ 区 間 / 行橋(9:16発)⇒直方(10:59着) 直方(12:20発)⇒田川後藤寺(12:59着)

■ 本編の概要 ■

平成筑豊鉄道伊田線・糸田線・田川線の各線は旧国鉄特定地方交通線で、平成元年にJR九州から継承されました。田川線は行橋から田川伊田の区間で、線内にある九州最古の鉄道トンネルである第二石坂トンネルと三連アーチ橋の内田三連橋梁は国の登録有形文化財に登録されています。国鉄時代からあるホームや有効長が長い駅と、第三セクター後に設置された短いホームの駅とが対照的である。田川伊田から直方は伊田線となり、全区間複線で筑豊平野を駆け抜けていく。糸田線は金田から田川後藤寺までの全長6.8kmの短い区間で、15分程の道程となります。運転士の喚呼音、運転室の操作音を収録しています。

◆ 主な見どころのキャプチャ画像 ◆



高架駅の行橋を発車！しばらくJR日豊本線と並走し、今川を渡ると右に離れて行く。



今川を右手に見ながら、長閑な区間を進んで行く。(今川河童～豊津)



駅の長い有効長が、石炭輸送の長編成貨物で賑わっていた頃を偲ばせている。(豊津)



九州最古の鉄道トンネルである、第二石坂トンネルに入る。(崎山～源じいの森)



油須原には使われていないが、通票受器が残る。上り列車との交換が行われる。



上伊田手前で日田彦山線と並走する。この駅を発車後に合流して田川伊田へ向う。



田川伊田に到着。左に見えるホームはJR日田彦山線。この先は伊田線を走る。



伊田線は炭鉱全盛期の明治時代に輸送力の増強で、早くも複線化された。(田川伊田～下伊田)



金田手前では、糸田線からやってきた列車と並走するも追い越されてしまった…



開業時のボディーカラーを今も引き継ぐ412号とのすれ違い。(藤棚～あかぢ)



遠賀川を渡ると、ほどなく左側から筑豊本線が接近してくる。(あかぢ～南直方御殿口)



筑豊本線(左2線)と複数線になり、終点の直方へ向う。



直方に到着。折り返して金田から糸田線経由で田川後藤寺へ向う。



金田を発車し、構内のポイントを渡り、糸田線に入っていく。



糸田線は全長が6.8kmしかなく、すべてが棒線駅である。(糸田)



終点の田川後藤寺に到着。前方にはJR九州の気動車が見える。